

木育 かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木

Vol.
15

木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Contents

Page1	地域サポーター養成講座
Page2	みやざき木づかいデザインワークショップ
Page3	
Page4	みやざき木づかい県民会議総会・保育園の取り組み

みやざき木育プログラム

地域サポーター養成講座

日 時：令和3年3月3日(水)
場 所：めぐみ保育園（宮崎市）
参加者：地域サポーター8名



講師の松井勲尚先生、吉田理恵先生には、コロナ渦の状況を考慮し、リモートで参加していただきました。

みやざき木育プログラム・・・

宮崎県では、宮崎固有の文化や豊かな森林・木材資源をベースとした宮崎らしい木育プログラムの開発に取り組んでいます。

木育プログラムのモデル園として協力いただいている、めぐみ保育園（宮崎市）において、園の木育活動をサポートしてくれる地域の方を対象に、研修会を行いました。

➤ 木育とは

「木育」と聞いても、「何だろう？」と分らないと思いますので、その疑問を、松井先生の木育クイズプリントを答えながら、紐解いていきたいと思います。

皆さんの好きな木は何ですか？住んでいる地域の誇りは何でしょう。宮崎の木はご存知ですか？

では、日本で一番長生きの生きものは何だと思いますか？これが重要で、木も「生きもの」であることを意識してほしいと思います。「木育」は木と人の命を大事にする教育です。「木も生きている」木も毎年成長しています。年輪は、一年一年成長している証ですね。木を使うということは、木の命をいただく、ということです。木を伐ったら、新しい木を植えて、森を維持していきます。ペットを最後まで看取るように、人が関わった森林は、最後まで使うことが大事です。

➤ プログラム「オビスギの箸置き」

年少児の後期のプログラムの「オビスギの箸置き」を皆さんに体験してもらいながら、研修を進めました。実際に、園児のサポートになった場合の注意点などを松井先生と吉田先生に教えていただきました。

（先生からのアドバイス）

皆さんには、子どもの安全面を見ていただきたいと思います。子どもの手は柔らかいので、皮膚を削ってしまうことがあります。また、熱中すると姿勢が崩れてきてしまいます。子ども達だからこそ、姿勢を意識してアドバイスをしてあげてください。この姿勢を意識することは、年中児でのプログラムに影響します。（松井先生より）

ご自分の身体も大事にしながら、子どもたちの体を大事にし、地域サポーターとして活動してもらいたいと思います。皆さんが地域の宝です。（吉田先生より）



磨くと出てくる模様などにも目がいき、それぞれの箸置きを仕上げました。



挨拶

「木育」は「食育」と同じくらい大事です。地域社会と言われるが、園・地域・保護者が繋がるのが大事であると思っています。今後も、地域の方とともに、木育プログラムを進めていきたいと思っています。



めぐみ保育園 園長 川添 教道

県内の自殺者はコロナ渦も影響し、全国ワースト3の200人越えとなっています。木育を通じて、命の大切さを考えていけたら、と思います。

木が、木を植える人、草を刈る人、木を伐る人、木を製造する人、木を売る人、木を使う人、といろんな人が関わり、循環しているように、地域のつながり、いろんな人が携わることが、人と暮らし、人と人、人と文化が繋がると思います。

木育を通して、皆さんも繋がって、子ども達と一緒に楽しんで元気になってもらいたいと思います。



宮崎県山村・木材振興課 梶原 和徳

高校生を対象とした木育授業の実施

宮崎の誇る森林資源を生かした新しい「くらしの提案、ものづくり」を、デザイン思考、プロトタイピングを通じて体験し、学生たちが広く社会の様々な人々や産業に触れ、学び、地域や社会に関わる人材として成長することを願い、取り組んでいきます。

みやざき木づかいデザインワークショップ

日 時：令和2年9月11日(金)

評価者：若杉 浩一氏、井口 博美氏（武蔵野美術大学 教授）



7月に出された課題「新型コロナウイルス感染症によるWEBコミュニケーションの促進状況での木を使った（気を遣った）、豊かで、素敵な新しいコミュニケーションの提案」でアイデアを出し合った前回。先生方からのアドバイスを受け、さらに工夫し試作を製作し、その成果をリモートにてプレゼンテーションしました。

[1班] ポケットマスク&スマホケース



外したマスクを衛生的に保つツール

【開発のポイント】

予備のマスク、付箋、鏡をつけるなど多機能にした。

【評価】

サイズを大きくいろいろな機能を加えたのは発見の1つだ。そこから、四角形で良いのか、角が引かからないか。カバンの中で、または机に置いて使う時、魅力をどうかを考えると、なお良い。(若) 商品になっているものが必ずしも完璧とは限らない。使う人によってニーズが変わるので、いろんな視点のアイデアが出たのは良い。サイズの限界を検討するともっと魅力的になると思う。(井)

[2班] suwalower



Flower (花)と座ら(ないで)という気持ちから考えた、ソーシャルディスタンスを楽しむためのツール

【開発のポイント】

色づかいがお店の雰囲気に合わないかも、ということだったが、お客様の反応は良かった。

【評価】

ネーミングもデザインもすごく良い。花の色合いや大きさなどを変えて検証すると完成度が上がる。(若) サイズを大・中・小と作ると良い。大きいものは店舗入口に置き、コロナ対応の完璧なお店としてのシンボルのカタチにして、店舗内に小さいものやリース状のもの、単色のがあったりするとお店にストーリーができる。(井)

[3班] hikkakerun ♪



お買い物カートに直接触れなくて買い物ができるツール

【開発のポイント】

持ちやすさと押しやすさを考え大きめのサイズで作った。また、持ち運びできるようなキーホルダータイプにした。

【評価】

鞆にかかっている姿も強烈なインパクトがあって良い。1日の中でカートに触れる時間はあまりないので、使わない時の仕舞い方も考えると、製品として良くなる。(若) 人の気持ちは掴んでいる。大事な事だが、それだけではいけない。もう少し使う時のカタチの工夫は考えて欲しい。(井)

[4班] 木の取っ手



買い物かごの取っ手を持たずに触れるツール

【開発のポイント】

木を丸く削り持ちやすくした。細い木に磁石をつけ、簾型にした。

【評価】

「取っ手」という使い方だけでなく、他の使い方もできる可能性を感じる。丸めて収納する際は玉留めで停めるというアイデアは良い。物としての存在感も良く、素材感もあり魅力が出てきた。ネーミングをもっと工夫した方が良い。(若・井)

[5班]

- ・マスクスタンド
- ・スタンド
- ・木の取っ手



マスク保管のためのツール、マスクをかきわくするツール、買い物かごの持ち手を衛生的に保つツール

【開発のポイント】

マスクスタンド：メモスタンドを参考にデザインした。木製スタンド：対象を子どもとし、持ちやすさや絵柄を工夫した。木製グリップ：試行錯誤を繰り返した。

【評価】

良いアイデアが生まれて、さらに他の人のアイデアが入ることで新しい発見があったりする。デザインは様々な人と手を繋ぎあって世の中の役に立つモノができる。(若) 商品化する可能性が十分にあると思う。宮崎県発のお土産になるのかを考えても良い。(井)

MOKU IKU



試作及びデザインのフィードバック

日時：令和2年11月20日(金)

高校生が考案し試作した、木を使った（気を遣った）「コロナ渦における社会の困りごとを解決するためのデザインの提案」について、デザイナーが商品としてブラッシュアップすることにより、社会の中で実際に役立つデザインとは何かを学ぶ機会として実施しました。

宮崎チーム「株式会社 川上木材」によるブラッシュアップ

suwalower



作品の魅力

「インパクトがある」「飾りにもなる」
改善点
「花の量が多いと大量生産が難しい」
「大きさのバリエーションがあるといい」

木の持ち手



作品の魅力

「持ちやすい」「温かみを感じる」
改善点
「鞆などからの取り外しが大変」



1 輪挿しタイプで3種類の大きさを作成。タグに注意書を記載してソーシャルディスタンスを確保。タグ無しで装飾の役割。



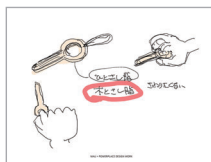
開発のコンセプトの機能を持ちつつ、新たにスタンド型としてデザイン。



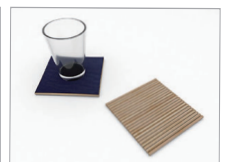
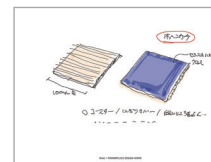
持ち運びしやすいようキーホルダー型にした。なお、加工にコストがかかるので、ノベルティなど売り方を考える必要がある。

武蔵野美術大学、パワープレイスデザインチームによるブラッシュアップ

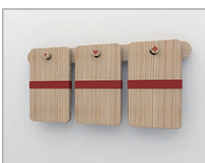
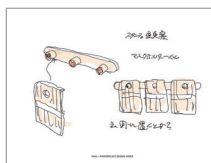
ヒッカケルン



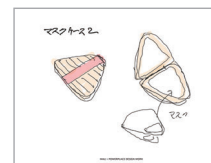
木の取っ手



木製スタンプ



マスクケース



商品開発の現場では、安全面や適正サイズなど繰り返し検討され商品が洗練されていく。社会の中で役立つデザインとして、考えることが一番大事。日常の小さなことにも気にとめ、それを表現してみることが大切である。

● 生徒の感想 ● <一部抜粋>

- ・自分もこんなアイデアをたくさん出せる人になりたい。
- ・作品を作る時は、見た目重視になるが、客観的に捉えられるようにしたい。
- ・何回も何回も失敗してもあきらめず、よりよいモノを作れるようにしたい。
- ・協力することの大切さを改めて学んだ。
- ・“あったらいいな”を実現させるプロダクトデザイナーはすごい職業だ。



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

MOKU IKU



宮崎県立工業高等学校が表彰されました！

みやざき木づかい県民会議 総会

日 時：令和2年12月22日(火)

場 所：宮崎県庁本館 講堂

この度、みやざき木づかい県民会議において、これまで取り組んできた活動が認められ、「木材普及・啓発部門」で、表彰されました。

表彰後の事例発表では、生徒たちがこれまで取り組んできた活動の報告を行い、最後に、「県産材を世界中に発信するために大学へ進学します。」「4月から教師として、今度は自分が子ども達に木育を伝えます。」「県外で、県産材の良さを知ってもらい、新築には宮崎の木を使ってもらいたいです。」

と、力強く、将来の夢を語ってくれました。



今年度の受賞者

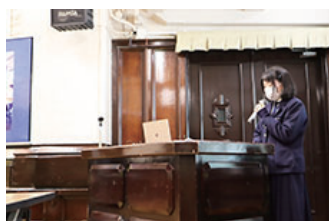
◎木材利用部門

・椎葉中央保育所 ・椎葉村交流拠点施設 katerie ・ちゃいんどべーす・IDEKITA

・西都ふたば幼稚園 ・河野俊郎酒店

◎木材普及・啓発部門

・宮崎県立宮崎工業高等学校 ・宮崎大学工学部ものづくり教育実践センター



木育活動に取り組んでいる保育園・幼稚園の一部をご紹介します

日南市

社会福祉法人 森と風の郷
四季の森こども園

宮崎市

学校法人 坂本学園
生目幼稚園



3月1日(月)、園舎内において、「わいわい木育大作戦」と題し、木育教室を開催しました。ビー玉遊びの「ころころビー玉」と、「おしやれかがみ」や、壁掛けを作りました。



2月18日(木)、「卒園記念森のお守り作り」と題し、年長児の木育教室を開催しました。小学校で頑張りたいことを願いながら磨いたお守りは、みんなと繋がる特別なお守りとなりました。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL: 0985 (27) 7682 / FAX: 0985 (25) 2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。

